

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 3月 12日

事業所名:テトラcocoアニー天満

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10			
	2	職員の配置数は適切である	10			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	6	車いす使用の利用者がいた時は机の配置に考慮した	パーテーション等の配置に考慮する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	2		勤務形態が違う指導員とも目標設定と振り返りの時間を十分に持つ。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	1		指導員全員にアンケート結果を直接報告する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1		ホームページに公開していることを周知する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		評価結果が全員に行き渡るようにする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	1	年に3回の講師研修会の実施	講師研修会への参加を促す。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	支援計画の作成に伴うモニタリング会議の実施	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0	発達検査等の実施	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1		指導員と個別に相談する時間を十分にとる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1		指導内容の定期的な見直しと確認を行う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	0	長期休暇時の学習フォロー	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	小集団クラスの生徒の状況を個別指導の担当にも報告している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2		当日の指導内容の打ち合わせの時間を十分にとる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1		指導終了時に聞き取りを行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	毎時間の指導記録の記入	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8	1		ガイドラインの総則の基本活動がどのようなものかを周知する。	
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	0		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	3		医療的ケアの必要な児童の利用がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	2		引継ぎ等の情報を誰にでもわかるように開示しておく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2		引継ぎ等の情報提供時には関わっていた指導員全員に意見をもらう。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		研修機会を設け全員参加できるように促す。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	4		活動を希望しない家庭への配慮も考える。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	0		協議会へ参加していることを知ってもらうためにも得られた情報を開示する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	保護者との情報共有の内容は担当者へも伝えられている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		保護者支援の必要なケースは情報共有していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	1時間程度の時間を取って面談をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0		保護者対応の内容等の情報共有をする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5		保護者からのニーズがあれば対応する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	すぐにミーティング等を持ち対応策を考え実施している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1		ホームページ等の情報発信源を確認してもらう。
	35	個人情報に十分注意している	10	0	情報管理の徹底を周知している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	理解を得られるまで対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		通所をしていることを知られたくない家庭があるため行っていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	0	マニュアルを見てもらえるように掲示している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0		避難訓練等の内容や結果を参加できていない指導員にも開示する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0		研修報告等を参加できない指導員にも開示する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0		身体拘束を行う場面を全指導員に共有し理解をしてもらっておく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3		食事提供がない。プログラムで食事を伴う場合は指導員に周知する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1		事例集をどの指導員も見れるようにしておく。